

# ウミホタル観察講座 (高松市会場)

開催しました！



- 日時 令和4年9月3日（土）19：00～21：00
- 会場 せとうちサステイナブルヨットハーバー、大的場海岸（高松市浜ノ町）
- 講師 安井 里香 氏（かがわ里海ガイド）
- 講師アシスタント 谷 光承 氏（かがわ里海ガイド）

9月3日（土）に、高松市浜ノ町のせとうちサステイナブルヨットハーバー及び大的場海岸にて、「ウミホタル観察講座」を開催し22名が受講しました。

はじめに、講師よりウミホタルや光る生き物について説明がありました。ホタルとウミホタルの違いは、ホタルは腹部に発光器を持ち、その中で作られる発光物質と酵素が体の中の酸素と反応して光るのに対し、ウミホタルは口から吐き出した発光物質と酵素が水の中の酸素と結びついて光るそうです。また、ホタルでは求愛に用いられる発光が、ウミホタルでは求愛の他に外敵を驚かせ身を守る役割を持つという説明に受講者は聞き入っていました。その後、子どもたちはライフジャケットを着用し、大的場海岸へ移動しました。



海岸では、事前に作製したペットボトル製のウミホタル採集装置の中に重りとなる砂利とエサとなる鯛ちくわと海水を入れ、採集装置の仕上げを行いました。その後、ウミホタルの採集場所である波止場へと移動し、講師より投げ入れの際の注意事項を聞いた後、採集装置を海へ投げ入れました。投げ入れてから10分ほど経った後、採集装置を引き上げました。



暗くしたまま、採集装置の海水をバットへ勢いよく移すと、ウミホタルが青白く光り始め、受講者から歓声が上がりました。受講者は、ウミホタルを手にとってみたり、写真を撮るなど、ウミホタルの発光現象を観察しました。また、懐中電灯でバットを照らすと米粒程度の大きさのウミホタルが速いスピードで泳ぎ回る様子を受講者は驚いた様子でした。

その後、講師よりデモンストレーションがありました。はじめに、氷水とお湯を用意し、温度刺激によるウミホタルの発光の違いを観察しました。氷水に入れたウミホタルは短時間に強い光を放つのにに対し、お湯に入れたウミホタルは長時間弱い光を放つことが分かりました。また、振動の刺激を利用したウミホタルのじゅうたんなどを披露していただきました。採集したウミホタルは、観察後に海へ返しました。



最後に講師より、ウミホタルは10月頃まで観察出来るので、色々な場所で調査して欲しいというお話がありました。受講後のアンケートでは、「ウミホタルの光る仕組みを実際に見て学び、楽しむことが出来た」、「ウミホタルに感動しました」等の感想がありました。

講座当日は天候が心配されましたが、幸いなことに雨も降らず、たくさんのウミホタルを観察することが出来ました。水質の良い海に棲むウミホタルがこれからも観察出来るように、参加した受講者が「豊かな海づくり」について考えるきっかけとなる講座となりました。